

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「地域との交流をもち…」を理念に住み慣れた地域での生活が出来るよう支援している。	○ 地域との交流がもてるよう、もっと接する機会を設け、実践に努める。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎日朝礼で理念の復唱をし業務に就いている。また、名札にも携帯している。たまに、理念について話し合いもするようにしている。	○ 職員会議などで理念についての話し合い、今後も職員に理解を深めるよう努める。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族は入居時に説明したり、担当者会議や面会時にコミュニケーションを取りながら、理解してもらえよう取り組んでいる。また、地域の人たちは運営推進会議で説明している。	○ 家族に対しては、今後も面会時などで説明する。地域の人たちには、行事などに招待し理解してもらえよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ホーム周辺を散歩しすれ違う時などあいさつを交わしたり、近隣の理美容室・スーパーを利用して、日常的に付き合いが出来るようにしている。行事等がある時は案内している。	○ 近隣の理・美容室やスーパーは今後も利用していきたい。行事などがある時は、パンフレット等で案内したり、声を掛けていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会には加入していないが、地域の幼稚園で行う行事(運動会・バザー)に参加している。また、2ヶ月に1回ホームに園児が来訪し、交流を深めている。	○ 地元の消防団や老人会との交流もしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献は出来てないが、民生委員との情報交換は行っている。	○	民生委員との情報交換行いながら、参加できるところは参加していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各自自己評価を行い、前向きに取り組んでいる。	○	結果後、職員会議で話し合いよりよいサービス提供ができるように努めている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。資料を作成し報告している。昨年度の運営推進会議で、民生委員の橋渡しにより、幼稚園との交流が持てるようになった。	○	今後もホームサイドからの相談や出席者の意見を聞き、サービス向上に反映していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからない事や相談事は、電話や出かけて行き面談している。	○	今後も相談などしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の講習会に参加している。実際、入居者の家族より相談があり、現在利用している。職員にも機会あるごとに伝えている。	○	家族に呼びかけ、専門職にお願いして10月に講習会をする予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で声かけしながら、協力 見守りしている。	○	日々注意しながら防止に努め、勉強会も行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、重要事項説明書を読みながら説明し理解を得ている。また、家族からの質問にも、理解、納得していただけるよう説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者の不満や意見は聴いている。可能ならば即時対応している。不満に対しては、話し合い改善をしている。必要であれば家族に連絡、報告している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に家族とコミュニケーションをとりながら、状況・状態を報告している。必要時は電話連絡し、早い対応ができるよう心がけている。ホーム便りを作成し送付している。金銭管理については、前もって家族に了解を得、金銭出納帳に記載している。	○ 今後も状況等は、面会時や電話で報告し、定期的にホーム便りも作成しながら、ホーム内での暮らしぶりを報告していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置、重要事項説明書にも明示している。面会時に、意見や苦情がないかホームサイドから聴くようにしている。可能な限り即時、対応している。	○ 相談しやすい体制を、今後もとっていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人的に聴いたり、職員会議で意見を聞き、その場で話し合っている。必要に応じては、上司に報告し意見をもらっている。	○ 職員が、話し易い雰囲気づくりをしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の希望に応じ休みを入れた勤務表を作成している。職員や入居者の体調、行事などがある時は、話し合いをしながら調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の場合は、十分な引継ぎが行えるようにし、ダメージを最小限に抑えている。新しい職員は利用者や家族にできるだけ、紹介するように心がけている。	○ 今後も十分な引継ぎが行えるよう努め、両者や家族等に紹介し最善を尽くしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	必要と思われる研修は、受講できる体制をとり参加している。受講後は職員会議で報告し周知できるようにしている。内部研修も行い職員間で情報が共有できるようにしている。	○	研修には積極的に参加できるような体制をとり、参加後は話し合い共有していく。外部講師による、衛生講習会(7/20) 成年後見人制度(10月)講習会を予定している。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同系列のグループホームとは密に情報交換は行っているが、地域の同業者とは、連絡協議会が主催する研修に参加し、その時に交流する程度である。	○	研修会を活用して、他ホームとのネットワーク作りに努めたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員会議やユニットで話し合ったり、個人面談も行っている。	○	職員の話をも十分に聴く事で、個々の対応ができるように取り組んでいきたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員の良いケアは評価し、共有している。職員同士で話し合いながら、ケアに生かしている。	○	問題が出てきたら話し合い、意見は尊重していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	管理者や職員は入居者の様子や状態を見ながら、話し掛けたり、話を聴く機会をつくり、受け止めるよう努力している。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居時は不安がないように十分な話し合いをしている。困っている事に対しても、良く話を聴き受け止めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意見、要望を聴き、希望に添えるようなサービスができるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に来苑できる方は来て頂き、ホームを見てもらっている。入居後はホームに早く慣れていただけるような、サービスを組み入れている。	○	家族の協力を得ながら、最善の方法でサービスができるように工夫していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒に出来ることはしてもらい、また、話を聴いたりして信頼関係を築いている。お茶を一緒に飲みながら、コミュニケーションもとっている。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況・状態を報告し、日頃の生活状況をわかってもらい、問題などが起こった場合は、一緒に考えながら支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族とのコミュニケーションがとれるよう、一緒に過ごせる行事に参加してもらえるように支援している。本人の状態変化があった時は、報告して常日頃からわかってもらっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くのスーパーや理・美容室に行っている。スーパーでは良く顔見知りと再会し、立ち話をする事もある。住み慣れた自宅の近辺まで出かけることもある。	○	今後も買い物は近くのスーパーを利用したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格を把握して、入居者同士が話ができるように、職員が間に入り取り持つている。	○	個々の性格を把握し、そのひとに合った対応をしながら、入居者同士のコミュニケーションがとれるよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族と再会した時は、情報を聞いたり、あいさつをしている。相談も聞くようにしている。	○	家族からの相談があった時は、受け付ける。面会ができれば、面会にも行き付き合いを大切にしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子を見ながら希望等を把握して、本人の意思を尊重し過ぎしやすいように心がけている。本人のペースに合わせて対応している。	○	今後も意思を尊重しながら、困難な人に対しては、家族や職員間で話し合い検討していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人や家族に聴いている。面会時にも情報を得るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で情報を交換しながら、ケアや会話をする中で、把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、職員から情報収集し、それを基にサービス担当者会議で、意見交換しながら介護計画を作成している。	○	家族以外の身内の面会があった時は、話をしながら情報収集する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態変化があった場合は、担当者会議を開催して家族や職員で検討し、その人に合った計画書を作成している。	○	今後も必要であれば見直しをし、個々に合った介護計画を作成していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添って、一日の様子を個人記録に記入し、情報を共有し、必要であれば介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	症状に応じて、デイケア(医療)を利用している。	○	家族や本人の希望があれば支援する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、地域の人達と意見交換を行っている。消防職員による、火災についての講話や避難訓練の指導など、協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在デイケア(医療)を利用しているが、ケースワーカーと話し合いながら情報交換をしている。年に1回地域の施設(風呂)を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	支援センターとは電話で情報交換をしている。	○	今後必要性が出てくれば、協働していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療が受けられるよう、受診時は情報を提供している。必要に応じて職員も同行している。家族が受診困難な時は、職員で対応している。	○	適切な医療が受けられるよう、情報提供は行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医と相談しながら、専門医に受診できるよう支援している。受診時は必ず職員が同行し、状態などを報告している。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>担当看護師が入居者と一緒に過ごし、日常の健康管理は行っている。入居者に異常がみられた時は報告し指示をもらっている。常日頃から相談にものってもらっている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中は面会を行い状態を把握し、医療機関や家族と話し合いを行っている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ターミナルケアのマニュアルは作成している。</p>	<p>○ 職員全員、ターミナルケアについて勉強会をし、かかりつけ医・看護師と話し合いながら共有していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在行っていない</p>	<p>○ 本人や家族が希望すれば、ターミナルを受け入れる。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居前に、家族や支援センターの職員と話し合い情報交換をし、ダメージの防止に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、周囲への配慮を行い声掛けや対応を行っている。ホーム内で知り得た情報は、外部に漏洩しないよう徹底している。	○ プライバシーに配慮した言葉掛けや対応ができるように、職員間で声掛けしながら周知する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の能力や状態を把握して、その人にあった声掛け(ジェスチャーなど)をしている。日常的な作業への参加は、声掛け促すがあくまでも本人の自由参加としている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、ゆっくり過ごして頂けるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する理・美容室へ一緒に行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食材の皮むき・味付け・盛り付けを行っている。個々に合った食事形態(粥・ミキサー食)を提供している。	○ 個々の能力に合わせて、食事の準備や調理など職員と一緒に行っていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食べたいおやつ希望がある時は添えるよう心がけているが、アルコールに関しては病的な面から要望があるが中止している。	○ アルコールを希望される方に対しては、主治医と密に相談しながら検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿便意がない方に対しては、排泄チェックをし状態把握しながら、排泄介助を行っている。場所がわからない方は、行動・動作を見ながらトイレへ案内している。尿パット使用は最小限に抑えるように心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯は決まっているが、状態により入浴が必要な方や希望がある時は、入浴(シャワー)できるよう支援している。入浴介助は、着脱衣・洗体。見守りすべてマンツーマンで対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファでくつろいでもらったり、自室で休んだりしてゆっくり過ごしている。就寝できない方に対しては、職員室にソファを設置して対応している。また、居室で暫く一緒に過ごし眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常家事や調理ができるよう準備と声掛けで実施している。役割を持つ事で張り合いが出、生き生きとした表情が伺えるようになった。買い物にも行けるよう支援している。	○	今後も出来ることを引き出し、職員と一緒にしながら支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持てる人は、行事や外出時に買い物ができるよう支援している。本人の希望があれば財布を持って買い物に行かされている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その時の状態や要望に応じて、外出できるよう支援している。買い物や野外活動を行っている。	○	買い物や理・美容室など希望があれば支援していきたいし、食材購入に出かける時は、入居者と出かけるようにする。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望は聞かれないが、季節毎の地域で行う催し物や花見に出かける機会をつくっている。	○	展示会などにも行けるよう支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたら取りついでいる。困難な方に対しては、職員が代理で聞き内容を簡潔に伝えている。希望があれば電話を掛け話せるよう支援している。手紙も取りついでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お茶を飲みながら、ソファや居室でゆっくり過ごして頂いている。面会時間は設定しているが、必要であればいつでも面会できることも説明している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない	○	正しく理解できるよう勉強会を取り入れ、身体拘束のないケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放している。安全面から施錠が必要な場合は、あらかじめ家族の了解を得て行っている。生活の場が2階にあり外部に出て行くには、1階事務所前を通るため、日中は事務職員での対応支援ができています。1階のグループホームへのドアは閉め、外出するまでにワンクッションおいて、わかるようにしている。	○	今後も1回の協力を得ながら、施錠開放に努めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動を見守りながら常に所在確認し、ゆっくり過ごせるよう配慮している。夜間は、定時に巡視している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所は決め、危険なカッターなどは届かないところで管理している。必要時は見守りの中で、いつでも使用できるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態を把握しながら、話し合い事故防止に努めている。事故が発生したら報告書を作成し、話し合い再発防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルはあり、いつでも見られるようになっているが、定期的な訓練は行っていない。	○	マニュアルに添って勉強会を行っていく。また、専門職に依頼し勉強したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルはある。定期に火災を想定した避難訓練は行っている。入居者が非常階段をスムーズに降りれるように、レクリエーションを兼ねて降りる練習はしている。	○	自主的な訓練を増やしていきたい。運営推進会議に地元の消防団員の方の出席を依頼し、意見など聞きたいと考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクに対しては、入居時に説明し理解を得ている。状態変化についても、電話や面会時に説明し、対策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックや状態把握により記録に残し、勤務の職員全員に周知している。日頃から入居者の状態を把握しており、異変の早期発見に努めている。担当看護師に報告し指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理と服薬の支援はしているが、薬の目的や副作用の理解は周知してないと思う。薬の説明書を見るようには伝えている。	○	その都度説明しながら、周知できるよう努めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩、軽い運動、腹部マッサージ、水分補給に心がけている。	○	繊維物の多い食材を取り入れたメニューを考えたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとり声掛け・誘導を行っている。個人記録にチェックしている。週1回義歯をポリデントをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算はしていないが、個人の症状に合わせて出来る範囲で対応している。個々の摂取量のチェックは個人記録に記入している。	○	一度に水分が摂れない入居者に対しては、時間をおいて水分を促すようする。症状にあわせて対応する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルは作成している。適切な対応にて感染が広がらないように心がけ、手洗い、うがい、手の消毒を行っている。目の届く位置に予防対策法を掲示している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に入る前に手洗いし、エプロンもケア用と調理用と区別して使用している。まな板はハイター消毒食器は食器乾燥機で完全に乾燥させている。食材は買いだめしないようにしている。生もの(魚、肉)は、当日配達してもらうようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節感(花や植木)を感じることができるよう心がけ、家庭的な雰囲気づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆっくり、落ち着いた生活ができるよう、フロアに観葉植物を置き、入居者が親しみを感じてもらえるよう、入居者が作り上げた作品を飾ったりして工夫している。くつろいでテレビを観てもらえるようソファ設置をしている。テレビの音量は大きすぎないように配慮している。また、ブラインドで日差しの調整もしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに区切りはないが、ソファとは別に窓際にテーブルと椅子を設置している。玄関の椅子に掛けられたり、職員室のソファに座りよく会話をされている。職員室はいつでも入れるようドアは開放している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に説明し、本人が使い慣れたものを持ち込んでいただけるようお願いしている。また、職員サイドで出来る範囲で対応している。	○	家族に説明し出来る限りなじみの物を持参して頂けるようお願いしていく。職員も落ち着いてもらえるように、写真を貼ったりして工夫をしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者に合わせて、換気や空調は配慮し温度設定は行っている。入居者の声を聞きながら、その都度調整している。常に職員の設定ではなく入居者が中心だと伝えている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物は置かないようにしている。また、配慮している。必要な部分には、手すりをつけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには入居者が書いた「便所」を表示している。居室は、個人で貼り絵をした名前を下げている。	○	入居者の様子を見ながら話し合い、個人に合った対応ができるよう工夫する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の構造上ベランダはないが、1階に干し場があるので1階まで洗濯物干しに行ったり、ホーム周辺を散歩している。気候の良い日は駐車場を利用して、昼食会やおやつを食べたりしている。	○	今後も駐車場を利用して、気候の良い日はおやつを食べたい。いつでもすぐに座れるようベンチを準備していこうと考えている。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者、家族 職員皆で参加する、忘年会を開催し楽しんで頂いている (昼食はバイキング方式)